

熊本地震発生から約1ヶ月。未だに続く余震の回数は、1297回（5月7日時点）にも及び被災された方々の苦悩が今も続いています。1ヶ月を振り返り、衛生面や医療・福祉など対応が急がれる課題も見つかってきました。

しかしながら、ボランティアセンターが開設され、ゴールデンウィークには本県を含め全国からたくさんの方が支援活動に参加したり、高速道路の全面開通や熊本県内の公立小中高（支援学校を含む）のすべての学校が11日までに再開することになったり、少しずつ復旧・復興の兆しが見られるようになりました。これからもみんなで力を合わせて、被災された熊本県民の皆さんに寄り添いながら、多様な支援が必要だと感じています。



建物耐震化による揺れへの対策を考えていますか？

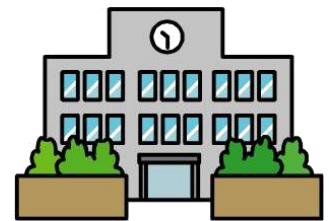
本県では、毎月1点検運動を行っています。5月のテーマは『住宅・建物耐震化』です。

徳島県では、大規模な地震による倒壊等の危険から、児童生徒等の身を守る学校施設の整備を推進し、平成27年度末までの完了を目標に計画的に進めてきました。耐震化と言っても、その内容は次の3つに分けられることをご存じですか？

耐震・・・壁や柱などを強化し揺れに耐えるつくりにする（※多くの公立学校で施工）

制震・・・揺れを吸収し、制御する装置を設置する

免震・・・揺れを建物に伝えない装置を設置する です。



この3つの比較から分かることは、耐震設備の中でも『耐震』は、建物が一番揺れるということです。当然中での人間や設置物はその揺れに耐えなければならないということになります。建物が高層になれば高い階になるほど構造上揺れも大きくなります。また、柱部分に耐震装置を取り付けた建物だと、天井や廊下などの水平面の破損や欠落が心配されます。**耐震化は全てにおいて安心できるものではないことを理解しておきましょう。**

耐震設備は、建物を倒壊から守り、逃げる空間を確保するものですので、下の資料を参考にしながら避難訓練等で**大きな地震（震度6以上）がきたら「建物は揺れる」「固定していない物は凶器になる」「建物の安全を確認しながら避難する」**ことを周知徹底してください。（※南海トラフ大地震の本県の震度は、震度6弱以上とされています。）

【資料】

震度階級	人 間	屋 内	建 物（鉄筋・コンクリート）
5弱	一部の人は、行動に支障を感じる	つり下げ物は激しく揺れ、棚の物が落ちることがある。ガラスが割れることがある。	壁などに亀裂を生じることがある。
5強	多くの人が、行動に支障を感じる。	変形によりドアが開かなくなる。棚の多くの物が落ちる。	壁・柱・梁などに亀裂を生じることがある。
6弱	立っていることが困難	壁のタイルやガラスが破損、落下する。固定していない家具の多くが倒れる。	壁、柱、梁などに大きな亀裂を生じることがある。
6強	立っていることができず、はわないと移動できない。	固定されていない家具のほとんどが転倒・移動する。戸が外れて飛ぶことがある。	壁、柱を破壊することがかなりある。
7	自分の意思で行動できない。	固定されていない家具のほとんどが大きく移動したり飛んだりする。	建物が傾いたり、大きく破壊したりすることがある。

すだちくんメールへの登録をお勧めします。

徳島県災害時の安否確認サービス「すだちくんメール」の登録はお済みですか？

既に登録されている方も、2015年11月4日からリニューアルされています。旧すだちくんメールのサービスは既に終了していますので、新しいものに移行する必要があります。すだちくんメールトップページ (<https://s.ourtokushima.jp>) の手順に従って登録を行ってください。



徳島県防災人材育成センター（北島町フジグラン隣）TEL088-683-2100 啓発・人材育成担当 平山